

TATSUMI COMICS

劇画

続・家畜人ヤプー

【悪夢の日本史】編

監修/石ノ森章太郎 作画/シュガー佐藤 原作/沼 正三



【悪夢の日本史】編のあらすじ THE DOMESTIC YAPOO

晴れ渡っていたシシリー島の澄明な秋の空の一点に、突如、稲妻がはためき黒雲が起って渦巻いた。空中列車『竜巻号』が飛び立ったのだ。目的地は飛行島高天原。フジヤマ飼育所で子宮畜を購入する際にアンナ・テラスの助言を得ようとするポーリーに、ウィリアムとクララが同行している。畜籍登録し、尿洗礼された麟一郎(麟)は、脚致椅子に吊られながら、昨日までの婚約者で今日の女主人たるクララの名を一心に念じていた。以後、麟はクララの視聴を己が見聞として脚致されることになる。「祈りは聴かれる」からである。

クララが「夢の本」で、ヤプーが日本人のなれの果てであり、昔の日本列島にはいま土着ヤプーの国「邪蛮」があることを学ぶうちに、空中列車はカラコルム山脈K2に停泊中の飛行島に到着。関東平野の四倍の規模を持つ飛行島の大雪山スメラの山麓にある遊仙窟では、女主人・前地球都督アンナ・テラスが一行の到着を待ち受けていた。飛行島がフジヤマ飼育所へ到着するまでの一時間、一行は黒色獣獣のスリルを味わうことになる。

が、その間アンナ・テラスがクララを通して麟に語った日本太古の物語は驚くべきものだった。天照大神とは古代日本へ航時旅行したアンナ・テラスその人のことであり、須左之男命はアンナとの賭に敗れた妹のスザンであった。おまけに、万世一系の始祖たる神武天皇はアンナの従畜たるニニギの別名でもあった。「古事記」「日本書紀」の日本神話の真相が白日のもとにさらされるなか、麟は時間旅行の逆説に頭が混乱してしまっていた。

一方、飛行島の接近を知らされたフジヤマ飼育所では、所長の冷笑ヒック(猿田彦)が主門畜コノハナと泌液雄畜サロメを従えて、子宮畜選抜の準備に余念がなかった。一見、滅亡前の日本と同じ文明水準を維持している錯覚のもとに巧妙に管理されている邪蛮の国から処女検査を経て選ばれた295匹の処女ヤプーを、ヒックは非常呼集で呼び集めた。その中の一匹にカヨという半白人そっくりの美少女がいた。彼女と仲間は、これから虹の橋を伝って降臨するポーリー以下の白哲の女神たちの前で銀明水噴射検査など、羞恥に満ちたミス・コンテストに臨まなければならない。優勝した一匹は女神の身代わり子宮畜として、帝王切開の栄誉を担うべく、天国へ昇天して行くのだ。その時、フジヤマの修道院からは、女神に召された同胞を讃える歌声が空高く響き渡るであろう……

この作品は辰巳出版より刊行された「劇画家畜人ヤプー」(全4巻)を完全再現したものです



劇画家畜人ヤプー「宇宙帝国への招待」編

作/石ノ森章太郎 原作/沼正三
272頁/左綴じ/1983年1月より刊行

2000年後、日本人は肉体改造され白人女性の
快楽の必需品と化す!

劇画続・家畜人ヤプー「悪夢の日本史」編

監修/石ノ森章太郎 原作/沼正三 作画/シュガー佐藤
240頁/右綴じ/1984年1月より刊行

「古事記」「日本書紀」の記述を覆す、驚くべき想像力。
天照大神は…美貌の…



劇画家畜人ヤプー「快楽の超SM文明」編

監修/石ノ森章太郎 原作/沼正三 作画/シュガー佐藤
248頁/右綴じ/1993年5月より刊行

ついに人間消費時代、はじまる!?
未来世界の黙示録、いよいよ佳境へ。

劇画家畜人ヤプー「無条件降伏」編

監修/石ノ森章太郎 原作/沼正三 作画/シュガー佐藤
248頁/右綴じ/1994年3月より刊行

空想の快楽(原作)から視覚(劇画)の興奮へ。
長きに渡った物語がクライマックスを迎える。



電子書籍版

劇画続・家畜人ヤプー「悪夢の日本史」編

2014年4月1日発行

発行人: 廣瀬和二

発行所: 辰巳出版株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目15番14号 辰巳ビル





劇画 THE DOMESTIC YAPOO

続・家畜人ヤプー

【悪夢の日本史】編



監修/石ノ森章太郎
作画/シュガー佐藤
原作/沼正三

プロローグ

8

第九章

『高天原』諸景

34

第十章

遊仙窟で

52

第十一章

狩獵場へ

67

第十二章

矮人の死・黒奴の死

108

第十三章

降臨を待つ者たち

138

瀬部麟一郎(麟)

西ドイツ留学中の日本人学生。未来帝国イースに連れられ婚約者だったクララの家畜にされてしまう。馴致椅子の中に吊られ、恐るべき日本古代史の真相を知らされる。



クララ・コトヴィッツ

ドイツ名家の出で天涯孤獨の身。リンを救うためにイースへ行くが、イース青年ウィリアムに惹かれ、人間としてのリンを捨てる。ポーリンと共に未来日本を訪れる。



ポーリン・ジャンセン

イースの大貴族で女検事長。黄色人という理由でリンを家畜に貶め、クララの心も変えさせた。自分の子胤を奉持させる子宮畜を選びに地球のアンナを高天原に訪れる。



ウィリアム・ドレイデ

ポーリンの義弟。イース男性としては珍しい活発な青年。イース女性に比べて控えめなクララを前史時代人と見抜くが、そんな彼女に一目惚れし騎士役を買って出る。



第十四章

富士山降臨

1. フジヤマ飼育所
2. 冷笑ヒツクの恋
3. 白紙身売状
4. 天狗猿田彦
5. 玉門畜コノハナ
6. 泌液雄畜サロメ
1. 富士の噴煙
2. ヒノマル旗
3. 賭と四次元小宇宙
4. 聖唾
5. 邪畜国二千年史略

158

第十五章

子宮畜選抜

1. 非常呼集
2. 処女検査
3. 還俗なき修道院
4. ミス・コンテスト
5. 銀明水噴射試験
6. 処女格闘
7. 松茸
8. 首輪聖母の昇天

184

献辞

監修者より「文字を画にする難しさ」石ノ森章太郎

原作者より「詩情をたたえたヤプー幻想夜想曲」天野哲夫
(沼正三)

「宇宙帝国への招待」編のあらすじ

EHS圏用語索引

238

4

237

6

7

アンナ・テラス

前地球都督でイース一の美女。失踪した妹を探し、訪れた古代日本で天照大神として崇められる。蘇畜主義者だが、賭に勝つためには平民を鼻人形にすることも厭わない。



デミル医師

ポーリーン御抱えの産科医。子宮畜を選定する彼女に随行した際、誤って検尿矮人を殺してしまふ。過失を隠蔽するため高天原の矮人倉庫で贗物とすり替えるが……



サルド・ヒツク

フジヤマ飼育所長。元は画家だったが、アンナ・テラスの賭金遊技の対象として鼻人形にされた。魁偉な容貌の持主だが、寵愛が去った今も、一途にアンナを慕っている。



子宮畜カヨ

フジヤマ飼育所で修行に励む美貌の日本人少女。ポーリーンの子宮畜として選ばれたことに喜びを感じる反面、首輪をさせられるなどの家畜扱いに失望と恐怖を抱く。



正編《宇宙帝国への招待編》のあらすじ

二千年後の未来社会。時間と空間を征服した人類の宇宙帝国イース(EHS=The Empire of Hundred Suns)の幾百もの遊星領には、前史時代以来の英王統の女系の女子が女王として君臨していた。女性政治・軍事・司法・経営等の社会活動の一切を掌握し、男性は学問と芸術を事とするが、家庭では妻に隷属する。この女権性は、貴族・平民の両階級に及んでいた。

政体は貴族政治で、千の大貴族とその百倍の小貴族が、その十万倍の平民を統治していた。以上の正規の国民はすべて白人で、その下に白人に数千倍する黒人奴隷階級があり、さらにその下に黒奴数の何百万倍の黄色家畜人やプーが飼育されている。

黒奴は「半人間」と称ばれ、多少の人権を認められているが、ヤプーは「知性猿猴」と見破られて以来、全くの家畜として使役・愛玩・消費されている。進歩した科学の力は、あるいは染色体手術による核酸加工により遺伝的に、あるいは直接の整形加工に

より外科的に、人権のないヤプーの肉体を自在に変形し、現代人の想像も及ばぬ無数の変種を作り出した。

犬のように四つん這いで走る畜人犬、倍數細胞で三倍の巨体を与えられた畜人馬、水中での乗物である河童、双胎仔から作る馬形双体等の新種の家畜や、栄養液循環コードにつながる個性、独立行動性を限定された肉便器・肉痰壺・肉反吐盆・舌人形などの生体家具、さらに、生体接着糊で複数の畜体を連結した肉寝台・肉椅子・肉浴槽等があり、また読心能を与えられた読心

家具、体長十五センチの矮人、三・五センチの極小畜も広く使用されている。

こういう変形を受けないのを原ヤプーという。常に主人の身邊に侍する従畜にはこれが多い。原ヤプーは人形を維持してはいるが、二つの点で生理的に変質させられている。一つは皮膚処理で、寒熱に耐える能力を得る反面、衣類が着けられなくなり裸体を強制される。もう一つは腸内へのエンジン虫寄生だ。いまは家畜化された他星動物の有翼四足人の体内に発見された巨大回虫が、原ヤプーのためにも生きた消化器の役を務める。肛門から首を伸ばして最下等の液状餌料(畜乳)を一週一度吸うだけで栄養分が足りるので、原ヤプーには排泄というものがなく、また口腔が摂食の用途から解放されている。

そこで、白人―黒奴―黄畜間に三色摂食連鎖が成立している。白人の便はやプーの薬になるが、尿は黒奴酒になる。黒人のものはすべて畜乳本管に流れ込み、他の厨芥・塵屑、牛豚の糞尿等、イース世界の一切の不淨不用品と混和してヤプーの餌料となる。



これが畜人制度を支える物質的基礎であるとしたら、その精神的基礎は白神信仰である。アンナ・テラスの新福音以後、主神崇拜が加味されており、また局在神思想もあって、内容はまちまちだが、いずれにせよ、ヤプーの各種族は白人種を神として礼拝している。これに対し、黒奴を服従せしめているのは恐怖であり、直接的には日記報告の制度である。

生産労働を機械と黒奴に任せ、自らはギリシャ風の美的生活を楽しむ白人、ことに貴族たちの日常を快適にするため、知性ある家畜人やプーは、イースを織りなす細密画のような密度で、多方面に利用されていた。

シリウス圏第八遊星である本国星カルーの首都アベルデーンから地球別荘にきていたジャンセン家の侯爵嗣女ポーリーンは、自らも検事長を務める貴婦人だが、航時艇(空飛ぶ円盤)に乗って過去世界を遊歩中、一九六×年の地球面に墜落した。居合わせたドイツ娘クララとその婚約者の日本人留学生麟一郎(麟)は、ポーリーンを救ける



が、麟が畜人犬に咬まれて動けなくなった。このためクララは麟を癒すべく救援の航時円筒船「氷河号」に一緒に乗り込んで、二千年後の地球面なるシリウス島のジャンセン家別荘「水晶宮」に行くことになる。だが、この突然の未来旅行がクララと麟の運命を大きく変えることになった。

麟は皮膚の色からヤプー扱いされ、皮膚処理をされ、エンジン虫を囓まされる。逆上した彼はクララと心中しようとして失敗し、去勢される。

一方、クララはポーリーンの異父妹でスボーツ・ウーマンのドリスや、家畜文化史研究家の兄セシルや、やはり名門の出でポ

ーリーンの義弟にあたるウィリアム・ドレイパーに紹介され、歓迎され、霊液ソーマを飲んで、帰化の決心を固める。

別荘の一夜が明けると、麟は家畜適性検査を受ける。ウィリアムに愛情を感じ始め、麟をヤプー視するに至ったクララは、彼を自己の所有する土着ヤプーとして畜籍登録し、尿洗礼を施す。

フジヤマ飼育所で子宮畜を購入するのにアンナ・テラスの助言を得ようとしたポーリーンは、空中列車「竜巻号」で飛行島高原に向うが、ウィリアムとクララも同行することになった。クララの横たわるソファの中には、彼女が知らぬうちに麟が吊られていて、彼女の視聴を己が見聞とするよう馴致されていた。彼女は夢の本で、ヤプーが日本人のなれの果てであること、昔の日本列島にはいま、土着ヤプーの国「邪蛮」があることを知る。

想像を絶する日本の歴史が語られるうち、『竜巻号』は飛行島に着陸し、空一面には数知れぬ天使(畜畜)が一行の到着を歓迎する音楽を奏で始めた……。

『悪夢の日本史』編の発刊に寄せて

文字を画にする難しさ



「家畜人ヤプー」原作の面白さは、今更言う迄もないが、「知的言葉遊び」である。

S M、あるいはSFのスタイルを借りながら、作者は強引とも思える程の、ペダンティックなイマージュ世界に、読者を引きずり込んでゆく。

読者は、いつの間にか、その綴れ織りの言葉の網に掬め捕られて、正に「S M的快感」で、作者と一緒に、その世界を楽しんでいる。

「家畜人ヤプー」に限らないが、小説というメディアは、文字と文字の行間を読者に埋めさせることで、成立する。

作者は文字という素材で、読者のイメージを喚起し、読者はそのイメージで、与えられた行間に参画し、1+1=2、あるいはその世界づくりを楽しむ。

読者が演出する（させられる）イメージが豊饒であればある程、秀れた小説といえる。

●
そんな観点から言えば、小説の劇画化は、難しい。

文章をヴィジュアル化してしまう、という作業は、小説を読むという行為の、読者の楽

しみの一部を、奪ってしまうことになるからである。折角の行間を、イメージするための空白なスクリーンを、画が占拠してしまうからである。

「家畜人ヤプー」は、特にそれが顕著であることは、説明の要がないだろう。

●
前編は、原作者の（原作ファンの）ご不満は重々承知の上で、物語のSF的部分を拡大し追いかける、という構成で、なんとか体裁を整えたが、後編は更に、小説（文字）であるが故に面白い部分が増えていくだけに、困った。それを抜いては「家畜人ヤプー」にならないし、またそれを採り過ぎれば劇画版、「家畜人ヤプー」にならない、からである。ご不満部分は、小説の行間のつもりで、御寛恕願いたい。

●
続編劇画作者、シュガー佐藤は、小生のところから独立した新進である。シリーズ映画（例えば「スター・ウォーズ」等）の、監督チエンジという観方で、ご覧頂きたい。

石ノ森章太郎

わが目を消し給え、われ汝を視得ん

わが耳をふたぎ給え、われ汝を聴き得ん

足無くしてわれ汝に至り得ん

口無くしてなお汝に願求し得ん

Lösch mir die Augen aus: ich Kann dich sehn,

.....

紀元^{きげん}三九七〇年^{ねん}
シシリ^{しり}ー島^{とう}
クリスタル・
パレス^{パレス}



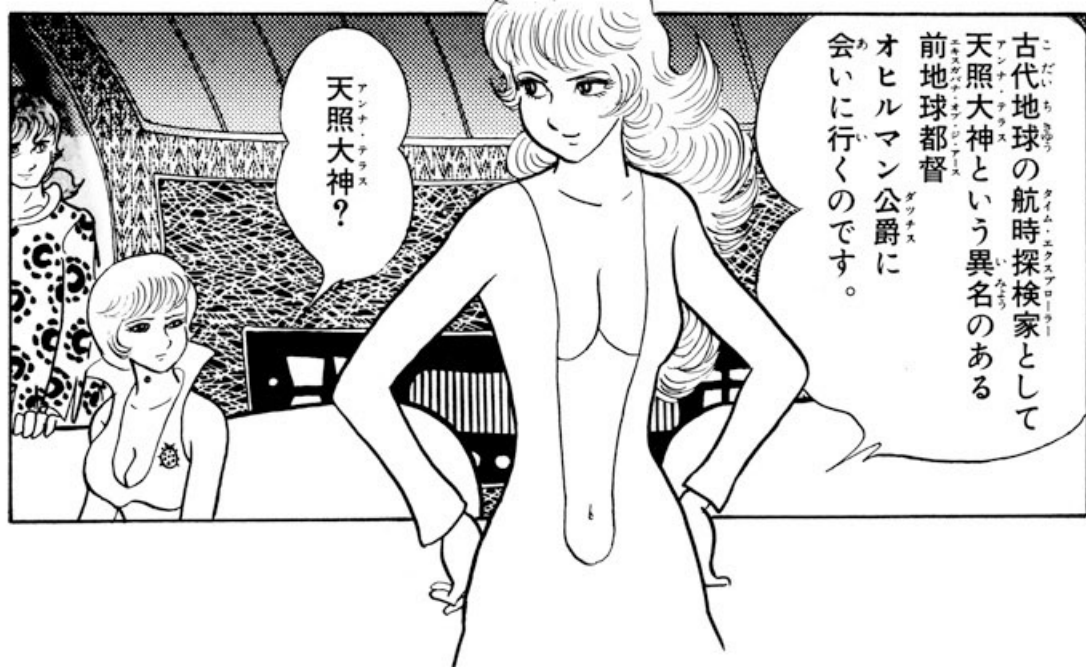


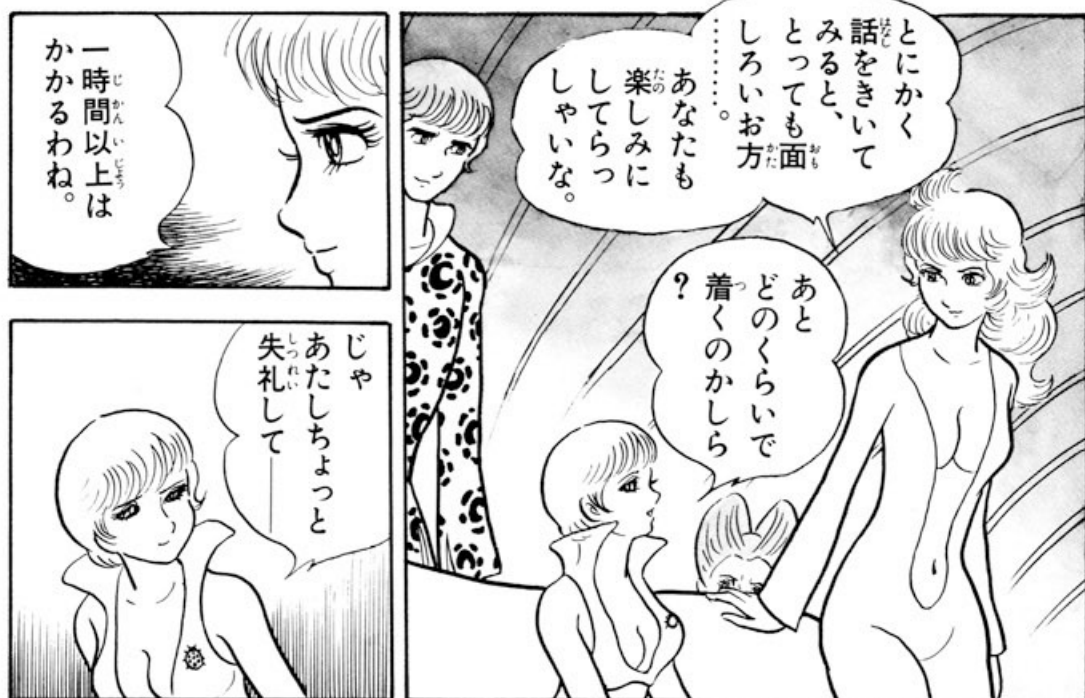


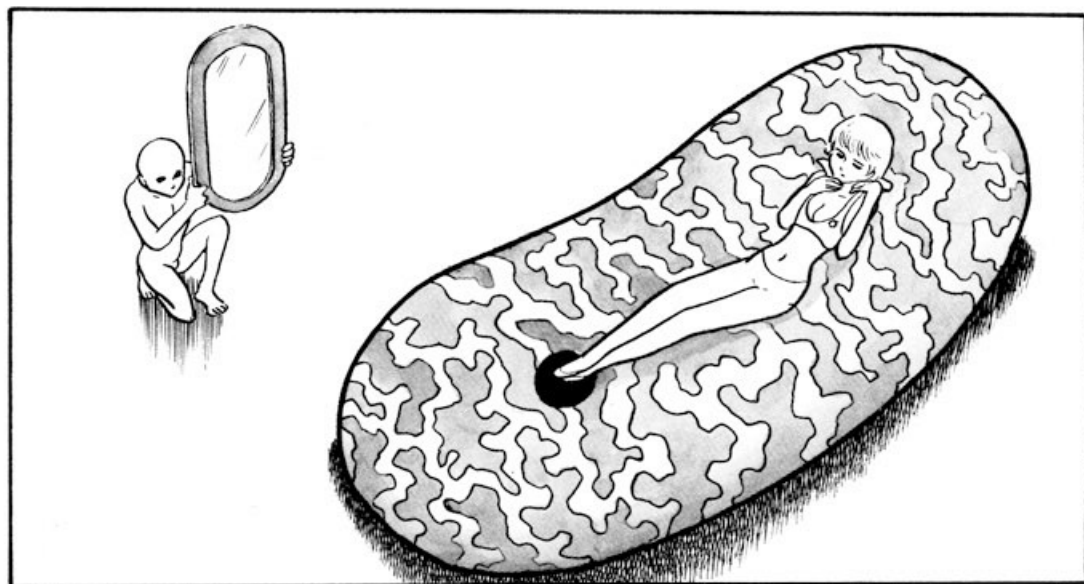
* 空中列車『竜巻号』

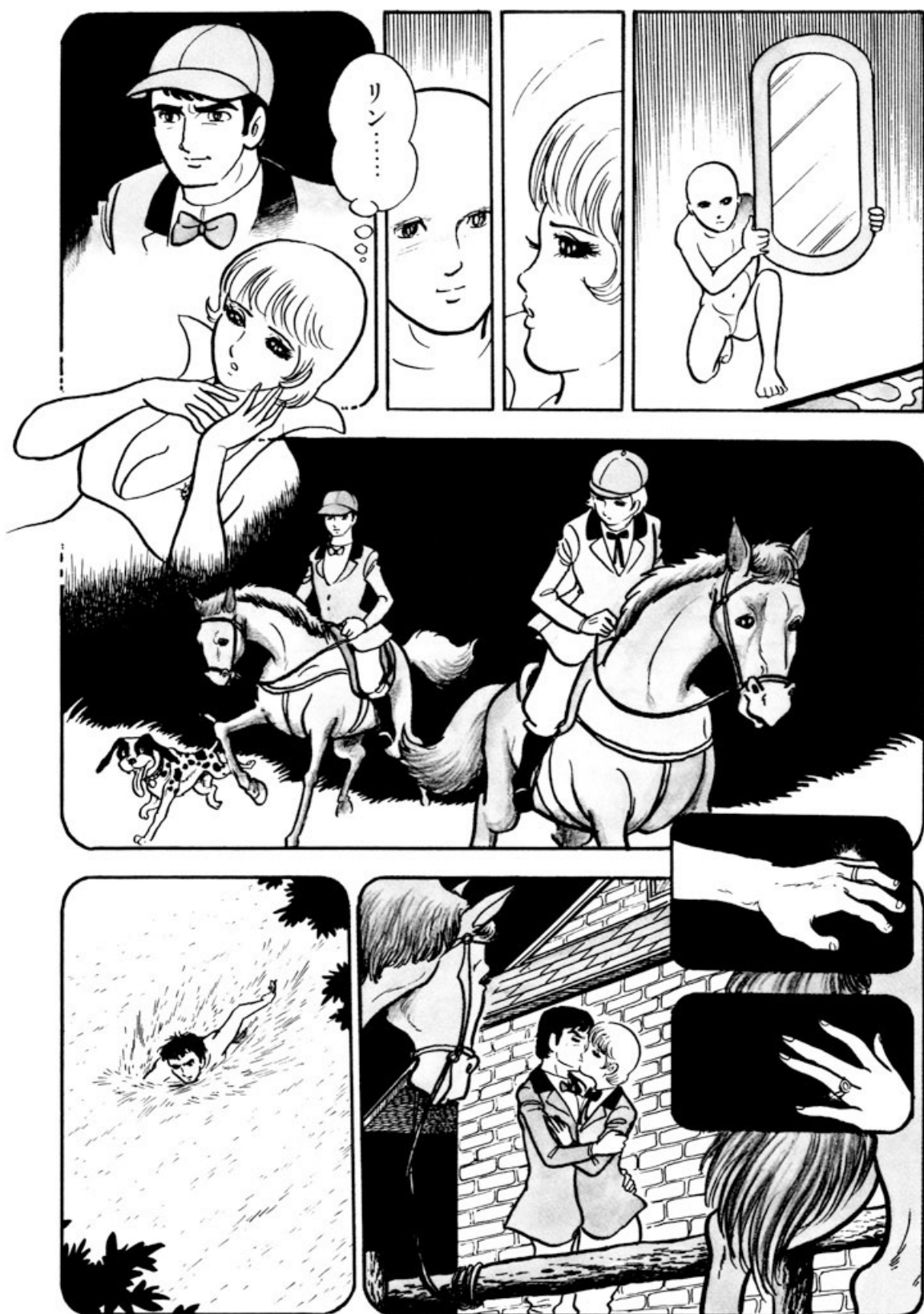
機体前方に人為的に真空を作り出し、後方大気の圧力差から強い風が起つてその真空部に空気が流入し、うとする。この風圧を利用し、いわば風に乗って前方の真空部に進む仕掛である。真空部を急に作り出す時の気温降下から周囲には水滴が生じ、雨雲がわく。機体を推す強風は同時にその雲も払い去るが、離れて見れば、あたかもこの空中列車が、風を起し雲を呼んで空中を飛翔するにも似るのである。

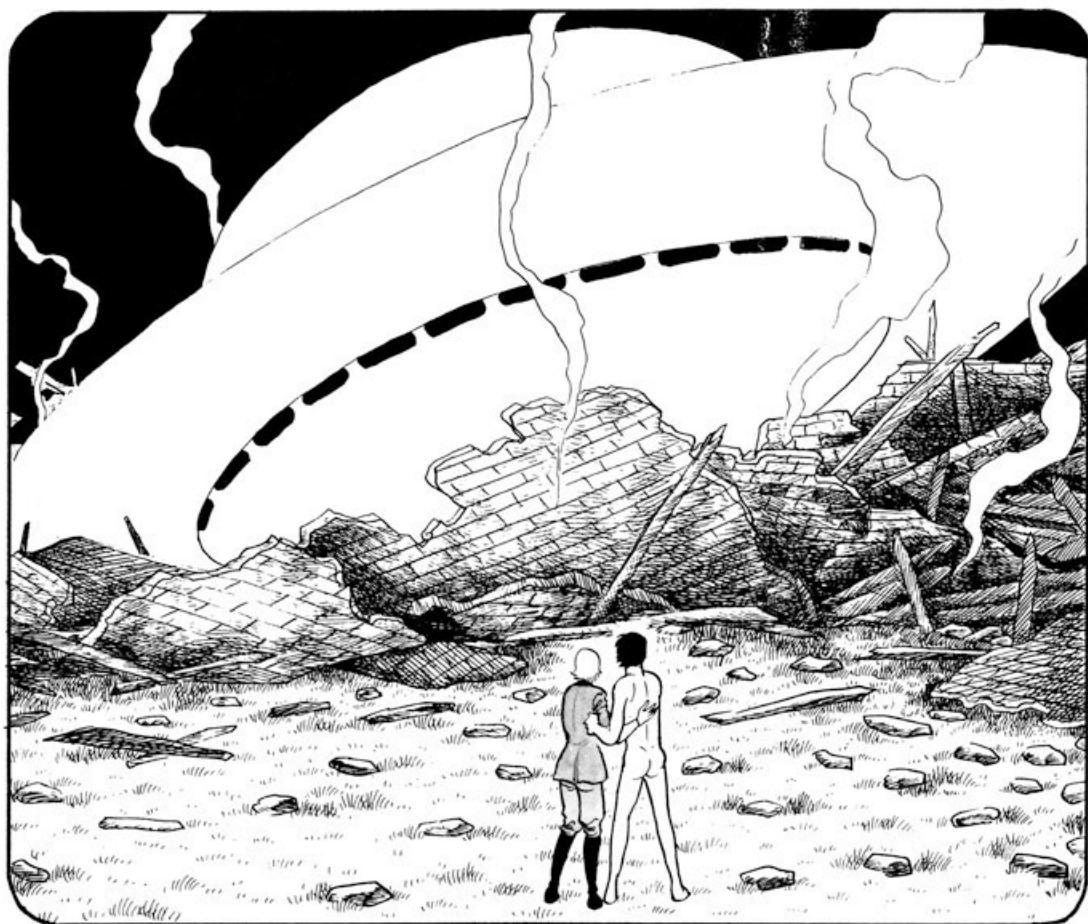


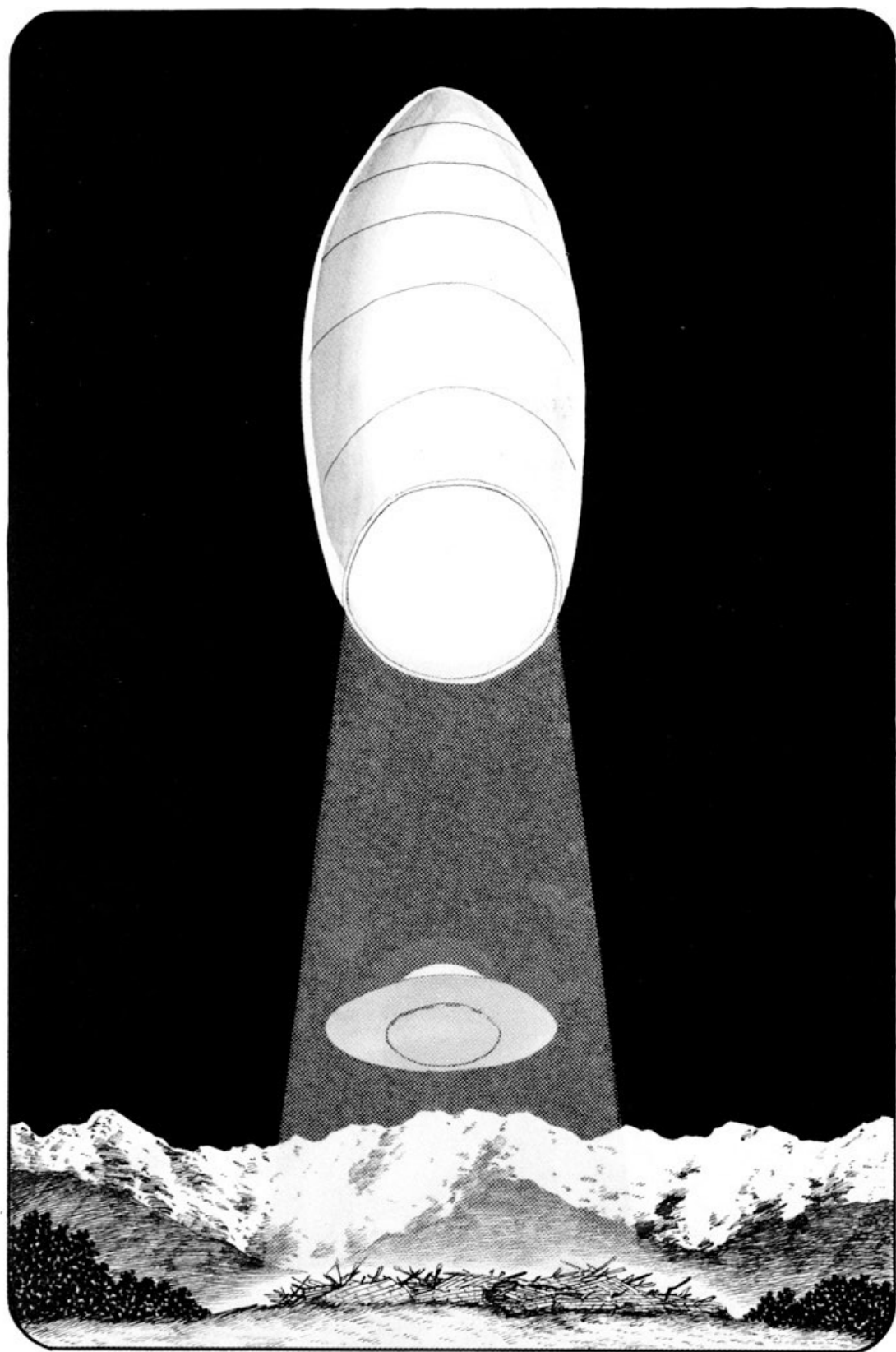


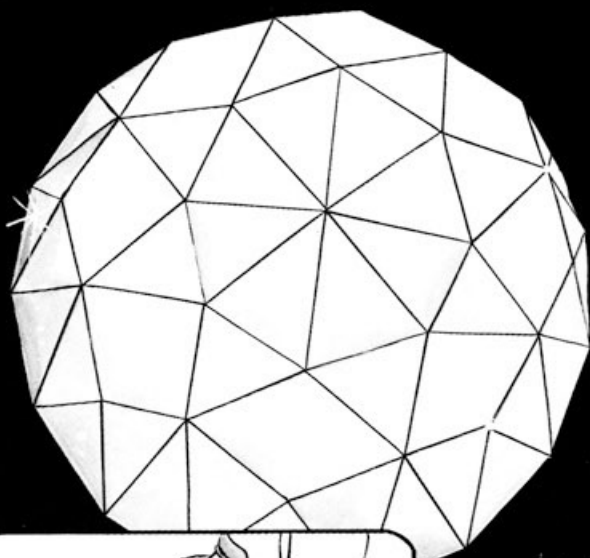
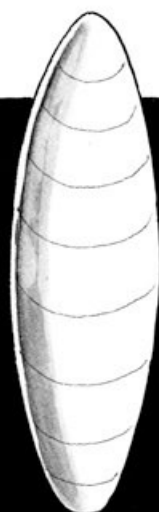
















リンは
あれから
どうした
ろう？

プレゼントよ！



リンは？
あたしに
訓練してくれ
といっただけ
じゃない？

いずれ
わかるわ。
まあ、この引鎖を
持つてらっしゃい
必要になるから…



大丈夫。
とにかくあたし、
賭けに不正は
しないわ。
ビルは知ってる…



ドリー……
あなたが訓練
しちゃだめよ。
賭けはクララの
訓練なんだ
から……



あの時
なぜ彼女は
笑ったの
かしら？



心配ご無用、

あたし今日は
これからちよつと
狩猟に出かける
んだから、
ここで

ヤプーにかまっ
てる暇なんか
ないわよ。

あのヤプーは
クララの手元に
置く約束よ。



*人類の近き未来図



クララの見ていた夢は、
二〇世紀後半以後の人類の歴史であった。
イースの前身たるテラ・ノヴァの建国史であり、
黒奴制、畜人制成立の前史でもある。
その概要は――。



人工衛星以来、ソ連はアメリカをリードし続ける。
月世界到達への第一歩は『ウテルス3号』によって。

アメリカが果し、その後アメリカとソ連との間で
月面の領土権を主張し合うようになった。

自由世界の指導者としてアメリカの焦慮は年ごとに深くなつて
いった。『ウテルス3号』の成功でひとまずソ連に先んじた科学
技術陣は、惑星ロケットでもはるかにソ連を抜きたいと努力を
重ねていた。イギリス、日本両国だけがアメリカの味方であつた。



VS.



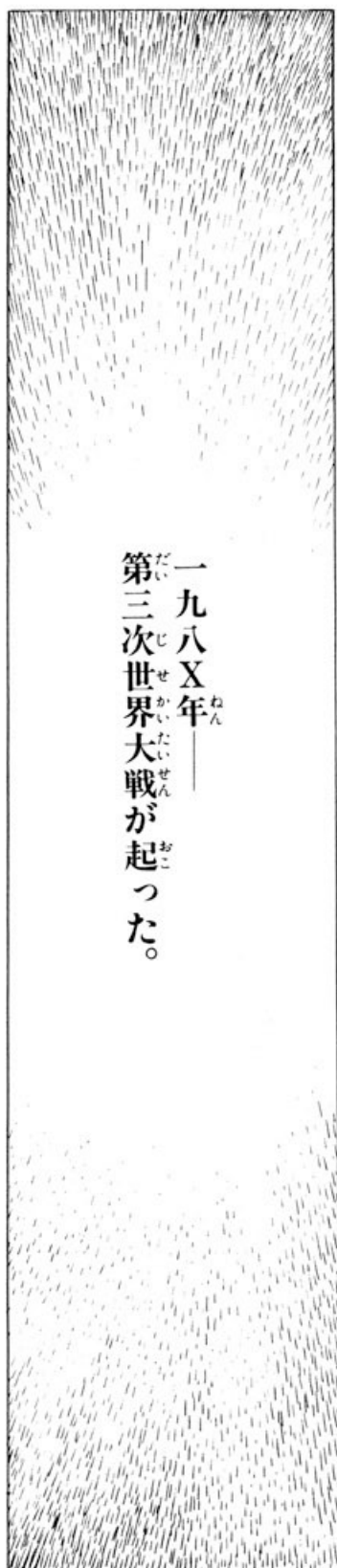
一九七七年——

最初の光速宇宙船の
『栄光号』は一千名の探
検隊員と最新核兵器と
を搭載し終り、
ひそかに南アの喜望峰
頭から上昇して宇宙空
間に出発した。

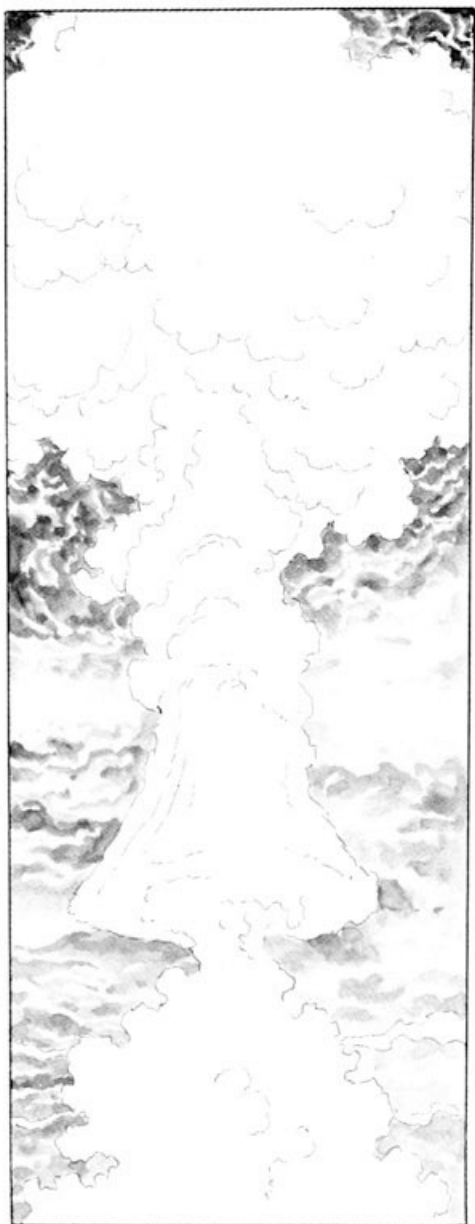
だが日本がアメリカの科学の
後塵を拝していたのと違って、
イギリスは、自らの水爆を
保有し、高度の科学水準を
誇っていた。
光波ロケットによる光速宇宙船の試作に着手。
遊星空間を越えていきなり恒星空間に挑戦し、
イギリスの栄光を輝かそうという悲願である。



一九八八年——
第三次世界大戦が起った。



世界大戦というに値するかどうか、戦闘はただ一日で終った。
アメリカは秘密裏に完成した超水爆α爆弾を、共産圏、すなわちソ連、中国、中南米、アラブの
あらゆる地域へ、人工衛星と月面秘密基地から同時にたたき込んだのだ。



殲滅的奇襲戦法は見事に成功し、ソ連から自動報復装置により細菌弾頭を含む核攻撃がなされたのと、
中国からも、これは意外なほど強力な超水爆の報復攻撃が加えられたが……



機先を制されたマイナス面が致命傷で、結局は、赤い世界は完全に戦闘力を喪失して降伏した。

共産圏十五億の人口のうち、
五億人がただ一日で殺された
のだ。生き残って降伏した十
億人も長くは生きられず、子
孫は作れなかった……



α爆弾の被爆地域には強烈な
放射能を生じて、原子病によ
る住民の死、黄色人種の絶滅
を運命づけていたからである。